

あなたと町を結ぶ情報紙

広報 しんち

9

1996. No.303



今、縄文文化を見直す気運が全国的に高まっています。

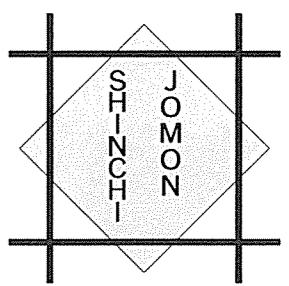
地球環境の保全が急務となっている中で、

「縄文人の心に帰ろう」という声が広がっています。

そこで、町と新地高校が共同して、「ふるさとの歴史を学ぼう」をテーマに、

「 shin-chi 観海大学—新地高校開放講座—・縄文しんちまつり」が

七月十七日から開講しました。



「新地高校開放講座」

太古のロマンに思いはせ 豊穴式住居や土器作り体験

高校生と町民共同で土器づくりに挑戦



▲新地高校体育館で行われた開放講座の土器づくりでは、生徒たちが思い思いに粘土をこね藤づるで文様を付けた

しんち観海大学「新地高校開放講座」は、生涯学習の町づくりを推進している町生涯学習本部（本部長、荒和英町長）が新地高校（田村功校長、生徒二百三十七人）に学校開放講座の開催を要請して実現しました。町民と同高校生が共同作業を通して、縄文文化を追体験してみようというユニークな内容で、七月十七日から十一月四日までの間、土器制作や豊穴式住居の建設などに取り組みました。

組んでいます。すでに七月十七日には、県立博物館学芸員森幸彦さんの講演「三貫地貝塚のひとびと」、十八日には地引き網などをを行い、十一月四日の同高校主催の「はまなす祭」まで計十回の講座が行われます。

「縄文土器・土偶の制作会」は八月九日、新地高校体育館で行われ、新地高校生三百三十七人と町民約五十人、また、



▲ウズベキスタンの大学生も参加しました

来日したウズベキスタン共和国の大学生七人も参加しました。制作会は川内村で窯を開いている陶芸家の志賀敏広さん・志津さん夫妻と元双葉高校教師（美術）の志賀達次さんを講師に迎えて、土器・土偶作りに挑戦しました。

新地町で発掘された縄文土器を使われた材料と同じ重粘土を町内から探し、フジの木を乾燥させた繩を用いるな

ど、「新地の縄文時代」にとことんこだわりました。竹べら、くし、ツタなどを使い、約二時間かけて湯飲みやつぼ、花瓶など思い思いの作品を作り上げました。作品は日陰で乾燥させた後、九月二十一日に野焼きをして完成。縄文時代と同じように焼きもみで火をおこし、わらを焼いて仕上げます。

今後の講座の主な内容は、乾燥させた土器を焼く「野焼き」（九月二十一日）、食文化研究家永山久夫氏の講演「縄文人の食生活」（十月十六日）のほか、食用のドングリや住居の材料になるカヤを集め、「縄文人の生活体験」（十月十九日）、縄だけを使って丸太を組み、屋根をふいて作る「豊穴住居の建設」（十月二十一日）、最後には同高校の「はまなす祭（公開文化祭）」（十一月三、四日）を行う予定です。

縄文時代は、今から約一万年前、地球上の気候は寒冷な時期から温暖な時期に転じ、針葉樹はその姿を消し、ブナ・

（後頁に続く）



■イベントいっぱい、はじける笑顔

4万人がじんちの海を歓喚

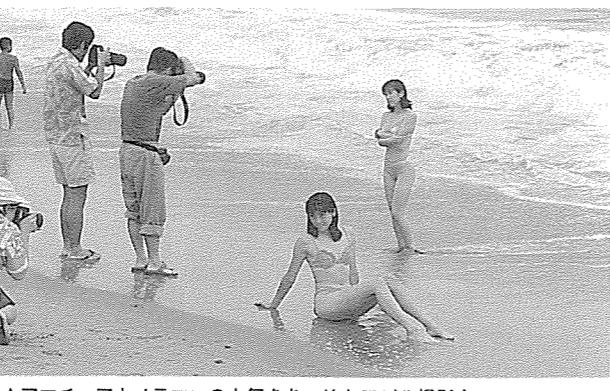


▲夏の夜空に大輪の花を咲かせた花火大会

新地の海を舞台に若者が燃えた。八月三日、釣師浜海水浴場周辺を会場に開かれた「遊海しんち'96」は、好天にも恵まれ、延べ四万人もの観客が詰め掛ける盛況となりました。

多彩なイベントに魅了

ふるさと産品即売ではホッキ飯や焼き貝、海産物、冷やした地酒「鹿狼山」、イチジクワインの試飲販売も好評で、初めてのステージイベント・カラオケ大会ではチビッ子や若者たちが熱唱、また、ゲス



▲アマチュアカメラマンの人気をあつめたモデル撮影会



▲砂浜に熱戦を繰り広げたビーチバレー大会

トの演歌歌手かざみ渚さんは「祭り船」「緑のハンカチーフ」などの持ち歌を披露、大きな拍手が送られました。

「写真コンテスト」では、海をバックにモデル撮影会などが行われ、大勢のアマチュアカメラマンが盛んにシャッターを切っていました。

お昼には地元漁船五十八隻が大漁旗をなびかせ約一時間にわたりて沖合をパレード、その上空をウミネコとモーターパラグライダーが飛び交う光景に観客は魅了。また漁船に同乗した町内小学生がヒラメの稚魚二千匹の放流を行いました。

砂浜のスポーツ、ビーチバレーボール大会は、女性一人を含む三人で構成、一般の部

十八チーム、飛び入りの部十人が参加、熱戦を繰り広げました。

無料でいくつものホッキが採れるとあって超人気のホッキ狩りは、約八百人が砂浜に並び、花火を合図に海水浴場の浅瀬にまかれた約三千五百個のホッキを夢中で採っていました。

フィナーレを飾る花火大会には、ゆかた姿の見物客らが釣師浜海水浴場周辺を埋め尽くしました。海に映える尺玉、豪華なスター・マインなど約千四百発の花火が海上に大輪の花を咲かせ、観客らの歓声とため息を誘っていました。

夜を彩るスター・マイン

「市民が主役」の祭りに成長!!

イベント「遊海しんち」は、平成五年に「美しい海のある町、新地」のイメージアップと地場産業の振興を図る目的で開催され、今年で四年目を数えています。二年目からは

通産省の電源地域産業育成支援事業として内容もより充実して開催してきました。主催は新地町と遊海しんち'96実行委員会。

今年の特徴は、地場産品販売班、海滨イベント班、ステージ班、ビーチバレー班などの各部門の体制強化に力点を置き、行政主導で進めてきた運営の大部分を実行委員会に任せたこと。

五月に漁協、商工会、農協の青年部・女性部、体育指導員会、町特産品振興協議会らメンバー約二十人で実行委員会を結成、何度も会議を重ねて準備を進めてきました。



▲演歌「祭り船」などで海のイベントを盛り上げたかざみ渚さん



▲地酒「鹿狼山」の味はいかがでしたか



▲砂浜に熱戦を繰り広げたビーチバレー大会



ゆかい遊海しんち'96

■8月3日 釣師浜海水浴場周辺



▲歓声を上げながらホッキ狩りをする参加者



▲演歌「祭り船」などで海のイベントを盛り上げたかざみ渚さん



ゆかい遊海しんち'96

■8月3日 釣師浜海水浴場周辺



▲砂浜に熱戦を繰り広げたビーチバレー大会



▲歓声を上げながらホッキ狩りをする参加者



▲演歌「祭り船」などで海のイベントを盛り上げたかざみ渚さん



ゆかい遊海しんち'96

■8月3日 釣師浜海水浴場周辺



▲砂浜に熱戦を繰り広げたビーチバレー大会



▲歓声を上げながらホッキ狩りをする参加者



▲演歌「祭り船」などで海のイベントを盛り上げたかざみ渚さん



ゆかい遊海しんち'96

■8月3日 釣師浜海水浴場周辺



▲砂浜に熱戦を繰り広げたビーチバレー大会



▲歓声を上げながらホッキ狩りをする参加者



▲演歌「祭り船」などで海のイベントを盛り上げたかざみ渚さん



ゆかい遊海しんち'96

■8月3日 釣師浜海水浴場周辺



▲砂浜に熱戦を繰り広げたビーチバレー大会



▲歓声を上げながらホッキ狩りをする参加者



▲演歌「祭り船」などで海のイベントを盛り上げたかざみ渚さん



ゆかい遊海しんち'96

■8月3日 釣師浜海水浴場周辺



▲砂浜に熱戦を繰り広げたビーチバレー大会



▲歓声を上げながらホッキ狩りをする参加者



▲演歌「祭り船」などで海のイベントを盛り上げたかざみ渚さん



ゆかい遊海しんち'96

■8月3日 釣師浜海水浴場周辺



▲砂浜に熱戦を繰り広げたビーチバレー大会



▲歓声を上げながらホッキ狩りをする参加者



▲演歌「祭り船」などで海のイベントを盛り上げたかざみ渚さん



ゆかい遊海しんち'96

■8月3日 釣師浜海水浴場周辺



▲砂浜に熱戦を繰り広げたビーチバレー大会



▲歓声を上げながらホッキ狩りをする参加者



▲演歌「祭り船」などで海のイベントを盛り上げたかざみ渚さん



ゆかい遊海しんち'96

■8月3日 釣師浜海水浴場周辺



▲砂浜に熱戦を繰り広げたビーチバレー大会



▲歓声を上げながらホッキ狩りをする参加者



▲演歌「祭り船」などで海のイベントを盛り上げたかざみ渚さん



ゆかい遊海しんち'96

■8月3日 釣師浜海水浴場周辺



▲砂浜に熱戦を繰り広げたビーチバレー大会



▲歓声を上げながらホッキ狩りをする参加者



▲演歌「祭り船」などで海のイベントを盛り上げたかざみ渚さん



ゆかい遊海しんち'96

■8月3日 釣師浜海水浴場周辺



▲砂浜に熱戦を繰り広げたビーチバレー大会



▲歓声を上げながらホッキ狩りをする参加者



▲演歌「祭り船」などで海のイベントを盛り上げたかざみ渚さん



ゆかい遊海しんち'96

■8月3日 釣師浜海水浴場周辺



▲砂浜に熱戦を繰り広げたビーチバレー大会



▲歓声を上げながらホッキ狩りをする参加者



▲演歌「祭り船」などで海のイベントを盛り上げたかざみ渚さん



ゆかい遊海しんち'96

■8月3日 釣師浜海水浴場周辺



▲砂浜に熱戦を繰り広げたビーチバレー大会



▲歓声を上げながらホッキ狩りをする参加者



▲演歌「祭り船」などで海のイベントを盛り上げたかざみ渚さん

来年も頑張ろう

特にこれまで三年間の実績により、仕事は違つてもすつかり顔なじみ同士だけに、会議での発言も活発な意見が交換されました。今年は段取りが遅かつたが、その後の対応はスムーズだった。気持ちよく当日を迎えた。これまでの三年間の活動がここで生きてきた」と実

行委員らは振り返ります。当日、イベントを成功させるために、炎天下を駆け回った実行委員の若者たち。大役を果たし、今は「やつて良かった。来年も頑張ろう」と満足感に浸っています。漁船パレード、海上での花火大会など「海のある町」を強く印象付けたイベントは、同時に、町の若者たちの連帯という、町づくりに欠かせない大きな成果を残したといえます。



▲ステージイベントを盛り上げてくれた「新地のフランク永井さん」？

村上哲夫
実行委員長

▲空と海とあなたがいれば…

礼状紹介

毎年、新地町の海で海水浴をさせていただいているものです。偶然、今年は「遊海しんち」のイベントの日でおおいに楽しめていただきました。暑すぎに行きましたが、美しく飾られた漁船を見たり、ホッキ貝拾いは、子供たちも参加させていただき大喜びでした。（ホッキ貝の料理の仕方がわからず、話に聞いたことがありませんでした。ごちそう様でした）広い砂浜にすわって、イカポッポをたべながらのびのびと、美しい花火を鑑賞することができました。また、イカ釣船の明るさには驚きました。企画された皆さんご苦労様でした。お陰様で、夏休みのステキな思い出ができます。

海の美しい町、新地の益々の発展をお祈り致します。お礼のごあいさつまで

福島市 大船木様より

H.8.9.5. (8)

秋空の下

町民運動会

10.10

楽しい競技がいっぱい!!

町制施行二十五周年を記念して町民運動会が十月十日(木)体育の日、町民グラウンドで開催します。

今年も保育所の子供たちのかわいらしい遊戯や運動会の華とも言える行政区対抗リレーまで十五種目を予定しています。

●プログラム
○印は行政区対抗

No.	種目名	参加対象	団・個
1	みこしゅうぎ	保育所児童	ダンス
②	玉入れ	一般男女	団体
3	フォークダンス	保育所児童・保護者	ダンス
④	それゆけしんちのメリケーン	一般男子	団体
⑤	キック&トライ	小・中学生	団体
6	親子三代ふれ愛スポーツ	親子三代	個人
7	緊急出動	消防団員	団体
8	ショータイム		
9	ダンス	男・女	ダンス
10	職場対抗リレー	職員(学生を除く)	
11	宝さがし	敬老者	個人
⑫	綱引き	一般男女	団体
⑬	知恵の輪	婦人・若妻・青年男女	団体
⑭	新地の产品あなたは甘党、辛党	行政区長、外国人	団体
⑮	行政区対抗リレー	一般男女	団体

まで新地公民館（☎622085）へ。

▼農村環境改善センター
10月3日(木)
午前10時～午後7時

▼駒ヶ嶺公民館
9月29日(日)
午前10時～午後7時

▼勤労青少年ホーム
9月30日(月)
午前10時～午後7時

踊りで盛り上げよう
町民運動会を踊りで盛り上げませんか。公民館では、次とおり踊り講習を行います。多数のご参加をお待ちしています。

なお、雨天の場合は十月三日(日)に延期します。

敬老会

しあの数だけ幸せに

○日時／9月15日 午前9時30分(受付8時)
○会場／農村環境改善センター



アトラクションも楽しみ



健康はありがたいなと感謝しながら生きています。今回、金婚夫婦表彰を受けるので二人で出席させてもらいます。また、地元の藤崎劇団のアトラクションなどがあるそうで、楽しめます。

サ・フォト・スクランブル



行く夏を惜しみ あんこ地蔵尊盆踊り 大会を楽しむ

新地町の盆踊り大会の最後を締めくくる小川の「あんこ地蔵尊盆踊り大会」が8月25日、二羽渡公園でにぎやかに行われました。参加者には豪華な賞品などが出るとあって、趣向を凝らした仮装の人なども多く見られ、子供からお年寄りまで約千人が参加しました。会場の中央部に設けられたヤグラを囲み、数十個のちょうちんが飾られる中、何重にも踊りの輪が広がり、参加者たちは行く夏を惜しみながら、心行くまで踊りを楽しんでいました。

▲約千人が参加し心行くまで踊りを楽しんだ



田じゅの成果を競い、 老人クル輪投げ大会

町老入クラブ連合会（六戸喜代治会長、会員1,394人）の第17回輪投げ大会が8月23日、農村環境改善センターで開かれ、約400人のお年寄りが参加しました。団体、個人戦が行われ、皆さん田じゅの成果を発揮し、熱戦を繰り広げました。

▲92歳の宇佐見嘉一さん（大戸浜）、宇佐見嘉一さん（下真）が参加した80歳以上の部の輪投げ大会

町道の立木伐採
町建設業組合が奉仕

新地町建設業組合（角田義正組合長・8社）が8月8日、町道にかかる立木の伐採奉仕作業を行いました。地元建設業者として町になんらかの奉仕をしたいと支障木の伐採作業を申し出たもので、当日は12人が参加、町道駒ヶ嶺新地線約2・5キロ区間を一日がかりで作業を行い、道行く人は「見通しが明るくなつた」と喜んでいました。



主任保健婦
斎藤洋子さん

こんにちは保健婦です

健康な生活つて
どういうこと？

みなさん！「健康ってどういうことなんだろう」と考えたことがありますか？以前、何人かの方に聞いてみたことがあります、「よくわかんないけど、元気だけことかな」とか「病気してないっていうことではないの」「あらためて聞かれてよくわからんない」とさまざまでした。「健康」という概念は今まで、しかも、多様なとらえ方ができる概念です。だから人によって健康のイメージがさまざまのは当然だと思います。

健康の概念として、最近もっとよく使われるのが、WHO憲章にある「単に疾病や虚弱がないということではなく、身体的、精神的、社会的に完全によい状態である」という定義です。もっと具体的に言えば、『健康な生活とは』

○第一段階

病気や機能障害、悩みなどなく、主観的にも客観的にも快適な生活を送ることができます。

○第二段階

病気や機能障害、悩みなどがあり、自分自身が対応できなくても、周囲が支えてくれることにより生活していくことができる。

○第三段階

これは、「住民が、安心して健康な生活を送ることで生きなくて、周囲の人も、よりよい生活を送ることができるように環境に対して働きかけていくことができる」。

これは、「住民が、安心して健康な生活であり、その実現をめざして活動しています。みんなさんの健康な生活のイメージに合いますか？町の健康づくりはみなさんのとの対話によりつくりあげていきたいと考えています。健康について、じっくり考えるひとときを持つてみませんか？」



町の文芸

新地短歌会

尚英中学校での新しい英語指導助手として、シンティア・エルナンデスさんが7月29日に着任しました。エルナンデスさんはアメリカのサンディエゴ出身。ユニバースティオブカルifornia大卒で、日本の言葉や文化を覚えたいと、英語指導助手を希望しました。7月29日から2年間、尚英中で教へんをとります。

▲あんこ地蔵尊盆踊り大会に参加したエルナンデスさん

アトランタに闘志を燃やす国ぐにの
青々と伸びし胡瓜の初生りを
ときめきて、掩ぐ梅雨晴れの朝
書道展出品作を手懸けんと
胃カメラの検査を受ける部屋に咲く
一輪の薔薇にいたはられをり
初めての曾孫生れしと電話うけ
海猫の群衆へて満員のフェリー
ボートは港を離る
桜井　英子
村山　けい
小山田　つや
荒井　洋子
片平　トシ
大須賀　しづ
片平　洋子
本内　時江
菅野　八重子

この頃は老いたる故か歌ごころ
わかず氣をもむ酷暑の夕
夏空に法螺の音ひびき遠き世を
甦らせて騎馬武者駆ける
物置のすみに置かれし箱の中先祖
町が知事感謝状
県民税の高納付率で
町が知事感謝状

町村に対する知事感謝状伝達式が8月5日、役場町長室で行われ、金賀英彦県相双地方振興局長が荒和英新地町長に知事感謝状を伝達しました。これも町民の皆さんのご協力のおかけです。ありがとうございました。

△金賀局長から知事感謝状を受ける荒町長

アトランタに闘志を燃やす国ぐにの
青々と伸びし胡瓜の初生りを
ときめきて、掩ぐ梅雨晴れの朝
書道展出品作を手懸けんと
胃カメラの検査を受ける部屋に咲く
一輪の薔薇にいたはられをり
初めての曾孫生れしと電話うけ
海猫の群衆へて満員のフェリー
ボートは港を離る
桜井　英子
村山　けい
小山田　つや
荒井　洋子
片平　トシ
大須賀　しづ
片平　洋子
本内　時江
菅野　八重子

桜井京子

消防ニュース

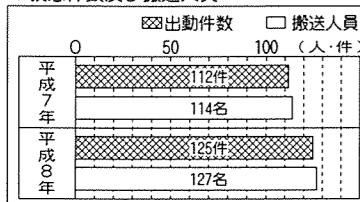
救急救助出動一

7月末まで125件

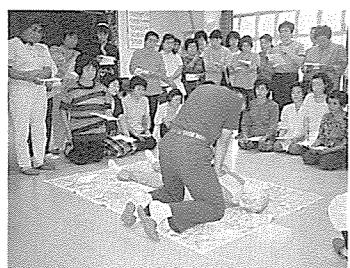
新地分署の救急車は1台配置され、町民からの病気やケガなどの救急要請に対して24時間体制で待機しています。

今年1月から7月末まで出動件数125件、搬送人員127人でした。これは、昨年度と比べてともに13件（人）増加しています。

▼救急件数及び搬送人員



普通救命講習を受けましょう



▲婦人会を対象に開かれた講習会

新地分署では、普通救命講習を行っています。万一の事故や急病に備えて、心肺蘇生法や止血法の技能を町民の皆さんに覚えていただき、救急車が到着するまでの初期の対応ができるようお願いします。

希望する地域、団体、事業所がありましたら、気軽に新地分署までお申し込みください。

9月9日は救急の日

相馬広域消防新地分署

☎622117



ことはあの移築を町と小塙氏のお金で行ったが、地元からも浄財を集めて、地域の人々が遠藤新の精神を糧として、誇りにしてもらうといった配慮も必要ではなかつたかと思う。

◇出席されている方が年配なので、もつと若者が出て意見を言わなければならぬと思いました。

◇今、O-157が騒がれているが、町には三大清水と呼ばれる清水があり、多くの人が利用しているが、安全のため町で検査対象にしていただけないか。

◇リサイクルセンターは見学して、ゴミの出し方をつくづく考えさせられました。私もそれ以後、カン類を出す時は前よりよく洗って出しました。ゴミ処理費用は多額の税金でまかなわれているといった話など、実際に見てとても実感が湧いてきました。

◇町の施設は初めて見学しましたが、りっぱな施設だと



見てきました。特に、大野台の浄水場はここにあるとは知りませんでした。そして、駒ヶ嶺地区の水はここから来ていることを初めて知りました。私のように知らない人はいっぱいいると思います。今後とも、施設めぐりを続けてください。

◇わくわくランドは初めてきました。緑が豊かで広々としており、子供たちが来たがるのがよく分かりました。また、機会があれば参加したいと思います。

◇東京から来て家族で参加させてもらいました。仕事柄、町のごみ処理方法は大変参考になりました。娘は設計会社勤務なので、遠藤新的名は知つており、くるめがりの家は大変興味深かったです。

実際に見て、聞いて、まちづくり体感

町内施設めぐりで新地再発見

「それでの施設の役割がよく分かりました」「躍動する町の姿が見えて嬉しくなりました」。町では、ふだんあまり見ることができない施設を町民の方々に直接見てもらい、町政への関心を高め、理解を深めてもうおうと、今年度から「対話の町政」の一つとして、「町内施設めぐりと懇談会」を開催しました。

第一回目の七月二十五日は親子連れ五十四人、第二回目の八月十二日は一般町民や帰省客二十七人が参加し、観海堂や故遠藤新設計のくるめがりの家、一般廃棄物最終処分場、リサイクルセンター、本年五月に約五十億円を投じて完成させた相馬地方広域水道企業団大野台浄水場、新地火力発電所、わくわくランドなどを見学しました。

午後からは、荒和英町長や加藤哲蔵助役を囲んで懇談会が行われ、参加者から町に対する要望や意見などが数多く出されました。

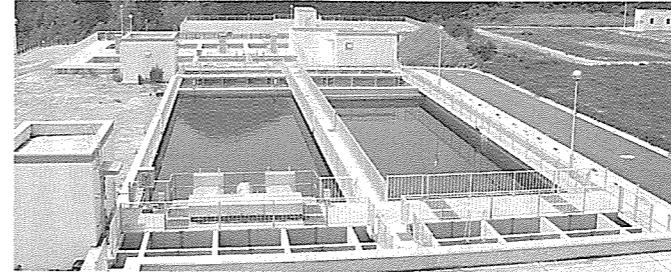
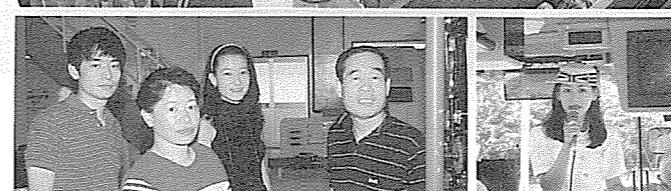
今日は、その一部を紹介します。

パートI 参加者の声 (懇談会から)

◇町の図書館や保健センターがもうすぐ完成するのを見ると、もうとゆっくり生まれてきたかったと思ひます。

◇資源化施設(リサイクルセンター)を見学して、カゴ類の中にセトモノが混じっていて、それを一つ一つ取り除く作業が大変そうでした。ゴミを家庭から出すとき、きちんと分けてだすことが大切だと実感しました。

◇遠藤新の設計の建物を地元福田に移築されたことに感謝する。ただ、残念だった



爽やかにしなやかに 心に響いた

20歳のメッセージ



講演
『あなたに届けたい
「夢を手にする方法」』
フリーアナウンサー
羽藤淳子さん

アナウンサーというと一流大学を出たと思うでしょうが、私は高校卒です。私はどうしてもアナウンサーになりたかった。でも、担任の先生も両親も高卒では無理と大反対。私はすごく負けず嫌いなので、絶対なるんだと強く強く思ふと、すごいエネルギーが湧いてきました。

そこで制服姿で福島県内のテレビ局に履歴書と嘆願書レポート用紙三枚分を持ってお



▲「成人の主張」でトランペットを演奏した荒芳樹さん



▲新成人を代表して答辞を述べる村山悦子さん



▲伊藤英夫・涼子夫妻が門出を祝い熱唱

NHK福島のニュースアンサントの募集があつたので応募、オーディションでは、自分をアピールするために、

スタートは「思う」ことでアナウンサーになりきつて自己ピアールを行つて合格し、一年後は東京の放送専門学校に入学しました。



▲会いたかった

お盆成人式が八月十五日、農村環境改善センターで行われ、百三十四人（男六十八人、女六十六人）が新成人を祝いました。新成人たちはちょっぴり緊張した表情を見せながらも、大人の自覚を胸に臨んでいました。

決意も新たに

式ではお母さんコーラスの君が代斎唱、新地町の歌に続き、荒和英町長が「知性を磨き、若い情熱と英知を郷里の

ために役立ててください」とあいさつ。新成人の村山悦子さんが「相手の心と痛み、苦しみが分かる大人になり、町づくりに貢献したい」と答辞を述べました。

成人の主張では、中津川か

おりさんが「ジャガイモの花が何色か分からぬ都會より自然がいっぱいある新地町に育つてよかったです。後二年で卒業しますが、栄養士として地元に就職したいと思っていました」。看護学校に学ぶ森裕子さんは「看護実習を通して五十七歳の女性の看護に当たり、基本的な看護しかできない自分が未熟さを感じました。いつか、ステキな看護婦さんになりたいと思います」など、人生の節目を迎えての決意を披露。荒芳樹さんが勉強中のトランペッタを演奏し、会場を盛り上げました。

☆二十年間生きてきたという実感が湧かない。それだけ時間が無駄に過ごしてきたのかなれたらと思っている。もちろん町をこよなく愛している。第一の通過点を通った、そんな感じである。



▲お母さんコーラスの皆さんも
毎年お祝いに駆けつける



▲夏の成人式らしく、浴衣姿がステキでした



▲会場のあちらこちらで記念撮影が行なわれる



再生紙使用

発行

〒979-27

新福島県相馬郡新地町谷地小屋字萩崎

企画振興課

FAX(0244)32-1114
(M-S)

40

伊達市との友好のあかし柿の木根付く

第1回
町民の翼 マロニエの会が寄贈



▲伊達市カルチャーセンター前に植えられたマロニエの会が寄贈したカキの木は、見事に緑の葉を広げている

友好のあかしが根付いたー。第1町民の翼「マロニエの会」(林隆雄会長、会員19人)が今年4月に姉妹都市・伊達市に贈った3本の柿の木が、緑の葉を広げ順調に成長しています。8月26日、伊達市新地会(秋元允会長、会員45世帯)が先祖のお墓参りに新地町を訪れ、報告してくれました。

日本の果樹を代表する柿も寒冷地、特に北海道では生育が難しいとされてきましたが、伊達市では温暖な気候を町のイメージアップにつなげたいと、市を中心に柿の植樹が盛んに行われています。

秋元会長は「いただいた時は葉っぱが一つもなくて、本当に木が育つかと不安だった。これで友好の絆はますます太くなつた」とお礼を述べていました。



▲伊達新地会墓参団歓迎会場で
秋元允会長(写真右)と林隆
雄マロニエの会会長(写真左)



- 人口／9,144人 (+21人)
男／4,488人 (+10人)
女／4,656人 (+11人)
- 世帯数／2,346世帯 (+5世帯)
8月1日現在 () は前月比

今月の納税

- 国民健康保険税 第3期分
- 国民年金 9月分

▼この街にもボランティアの輪が確実に広がっている。海のある町を印象づけた「遊海しんち'96」今回の特集記事「しんち観海大学開放講座—縄文しんちまつり」にも多くの町民のボランティアの姿がありました。とことん縄文にこだわり藤づるで作った縄を準備した人、高校生との交流を広げようとわざわざ穴住居三棟の建設のため、カヤや木材を用意している人ー等々。▼「高校生と町民の交流は他に例がない。この町だから可能だった」と、学校に言わしめたこの講座は、自然を敬い、人と人の争いがなかったと言われる縄文時代の精神を見事に生かしていくと感じた。

